

小鳥の発情を止める

発情のトリガー？

野生で発情を誘発している因子が何か知っておく必要があります。特にセキセイインコ、オカメインコなどの小鳥は、「雨期」に「緑の植物が生えてくる」事が発情刺激因子となります。

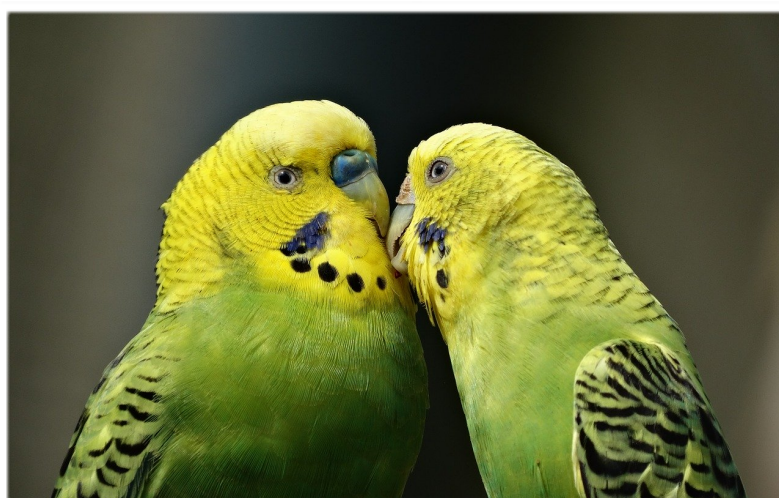
つまり、飼育下でも水浴びを控える、ご飯の制限をする、緑の野菜をあげない、などの対応が必要だと言うことができます。

過発情で病気になる？

発情のしすぎにより、様々な病気が引き起こされてしまいます。具体的には、自傷行為や慢性産卵、卵詰まり、低カルシウム血症、卵管脱、腹壁ヘルニア、高脂血症、関節炎、精巣腫瘍などがあります。低カルシウムや卵管脱など、直接命に関わる場合も多いため、やはり発情をしっかり抑制する必要があると考えています。

雄でも発情はダメ？

特にセキセイインコでは、強く発情している雄に精巣腫瘍が非常に多くみられます。慢性的に発情することで、精巣が発達し、それが精巣の腫瘍化を促進していると考えられています。そのため、雌ほどではないにしても、ある程度発情対策は取っておいた方が良いでしょう。



発情を見抜くには

小鳥を飼育する中で、最も頭を悩ませるのが発情です。特に雌の小鳥を健康に長生きさせる為には過剰な発情や産卵は避けたいものです。

発情をしている小鳥は、お尻を持ち上げたり、止まり木にこすりつけたりします。また巣に籠もろうとする行為もみられます。骨盤が開くために、便が大きくなる傾向にもなります。

発情抑制の具体的な方法

①ご飯の制限とダイエット

肥満や十分すぎるフードの給与はそれ自体が発情の刺激になります。まずは一日に食べているフードの量を量る事から始めて下さい。1週間量って平均の採食量が分かたら、次の週からはその分だけを与えて下さい。また視野の中にフードが無い事が重要なので、鳥さんから見えない場所にご飯は保管して下さい。明らかな肥満なら、さらにフードの量を減らしダイエットさせることも必須となります。

②日照時間の制限

もし、卵管脱・卵塞を 起こしたら？

卵塞による卵管脱



万が一、卵が詰まった場合は、緊急性があるかどうかを見極める必要があります。特に以下の症状が見られた場合は病院を受診して下さい。

- 息んでおり食欲元気がない
- お尻から何か出ている
- 出血がある
- ぐったりしている
- 便が出せない

ただし、卵が出来てから24時間以内で、元気食欲に大きな異常がみられない時は、まだ病的な「卵塞」ではないと考えられます。通常は卵が出来てから24時間以内に産卵するはずですので、それを過ぎる場合には病院を受診して下さい。

日が長いことも発情のトリガーです。出来れば明るくする時間は8-10時間以内とし、それ以外の時間は完全に寝かせるようにしましょう。隙間から光が入っていたり、夜中にちらっと覗く事も、その時間まで起きていた事になりますので避けて下さい。光周期を短くする場合は急に短くせず、1日に1時間ずつ短くして下さい。

③過剰な保温をしない・水浴びを避ける

セキセイインコやオカメインコは気温が高くなる雨期に繁殖を行います。過剰な保温は避け、調子を崩さない程度の温度を維持する程度にとどめましょう。雨期と勘違いするので、発情がある場合には水浴びも避けた方が無難です。

④過剰なコミュニケーション・スキンシップを控える

頻繁に話しかけたり、頭やお尻を撫でたりする行為は、鳥さんにとっては強い発情刺激となります。発情を抑えるためには、ある程度距離をとって接するように心がけましょう。よほど管理が難しく無い限り、2羽以上で同居しており、仲が良い場合には別れさせない方が良いと考えられています。

それでも発情してしまう場合は？

発情に影響する要因を全て改善出来れば、通常は発情をコントロール出来るはずです。それでもコントロールが難しく、卵巣や卵管にトラブルが発生する可能性がある場合にはお薬で発情を抑制する必要があります。月1回注射をする方法と毎日内服薬を飲ませる方法があります。いずれの治療も獣医師が必要に応じてご提案していきます。